

令和3年度「総括評価表」(徳島県立城南高等学校)

評価・評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善の方策	
重点目標	重点課題	具体的な対策とその評価指標(⇒印)	活動の実施状況と評価指標の達成度(⇒印)	総合評価(所見)		学校関係者の意見
学力向上の推進	教員の教科指導力を高め、ICT等を活用し、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。	各学期に設ける授業参観週間での教員相互間による授業見学や、年間2回の生徒への授業アンケートを実施し、教科指導力の向上を図る。 ⇒生徒による授業満足度80%以上	教師それぞれが、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業に努め、授業評価を1学期末・2学期末の年2回実施した。1人1台タブレットの活用やICTを活用した授業改善を行った。 ⇒生徒による授業評価での授業満足度は 1年生 92%(昨年度91%) 2年生 91%(昨年度91%) 3年生 90%(昨年度93%)であった。	B ----- 授業満足度は目標を上回っていた。生徒の学力を伸ばしていくことで、キャリア意識の育成に向けてさらに授業改善に努めていきたい。	・今後も生徒が学びがいを感じながら切磋琢磨し、学力を向上させていけるような授業を展開してほしい。 ・ICTを活用した授業を今後も展開してほしい。併せて、保護者対象に、ICT活用に関する研修を実施することも検討してほしい。	「自主・自立」の精神のもと、生徒が主体的に学ぶ力を育てていきたい。 新型コロナウイルス感染症による臨時休業等があった場合においてもICTを活用し、学びをとめないことが望まれる。 時間を工夫することで補習する時間を確保し、生徒のニーズに合った実施を検討しなければならない。
人権教育の充実	人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。	①人権ホームルーム活動の活性化を図るため人権委員会の活動の充実を図る。 ⇒人権委員会の実施 年間5回以上 ②人権啓発行事(人権展・人権映画等)を実施し、人権啓発新聞「TOMORROW」を発行する。 ⇒「TOMORROW」の発行を年間3回以上 ③ヒューマンライツ部を中心に支援学校との交流を進める。 ⇒交流会を年3回以上実施	①⇒人権ホームルーム活動実施記録を人権委員に毎回提出してもらい、成果や課題の共有を図った。 人権委員会は、2月16日現在で10回実施している。 ②⇒今年度は、コロナ差別を主題とした講演会をリモート形式で11月に実施した。 人権啓発新聞「TOMORROW」の発行(3回) 賀川豊彦展開催(2/8~21) ③⇒聴覚支援学校との交流会(1,2学期実施,3学期予定) 文化祭での交流会は中止となったが、本校人権委員会・ヒューマンライツ部で啓発資料を作成し校内で展示した。 また、各学期末に交流会を実施、3学期においても学期末の実施を予定している。特に2学期は本校を会場として、施設や部活動を案内し、部活動の生徒も手話で挨拶するなど大変友好的な交流となった。	B ----- 人権委員会・ヒューマンライツ部の一層の活性化と活動の成果を他の生徒に広げられるような工夫を考えていきたい。 聴覚支援学校との交流会は、生徒の間にも定着しており、毎回募集人数を上回る希望者を集めている。その成果もあり、次年度予定されるインターハイ総合開会式における手話ボランティアにも、17名が自主的に応募し、参加する予定である。	・積極的な生徒の活動を全体に広げてほしい。	講演会や研修、映画会、交流会等については、新型コロナウイルス感染症の感染状況の推移を見ながら、弾力的な運営・実施計画を進めていく必要がある。
生徒指導の充実	遅刻防止に努め、保護者と連携して生活改善を図る。	遅刻防止については、担任による常時指導(家庭への連絡を含む)とともに、遅刻常習生徒について10回の時点で生徒指導課による生活習慣指導を行い、15回で保護者来校の上生徒本人を交えて、担任や学年主任、生徒指導課長で生活改善について話し合う。 ⇒遅刻率1%以内、遅刻ゼロの日年間10日以上	本年度は、学校全体の遅刻ゼロの日は3日で昨年度よりも1日増加した。遅刻の総数については昨年度よりも80件減少した。昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症により休校などがあるため昨年度と同じ程度である。また2・3年生の遅刻が非常に多かった。遅刻10回で生徒指導課で面談については、コロナ対応のこともあり非常に多くの生徒が出たため行えていない。本年度1.07%で目標の1%は未達成となった。今後とも遅刻を減らすよう指導していきたい。 ⇒全校遅刻率は1.07%、遅刻ゼロの日は全校で3日であった。 学年ごとでは、 1年生遅刻率0.59%・遅刻ゼロ74日、 2年生遅刻率0.92%・遅刻ゼロ16日、 3年生遅刻率1.69%・遅刻ゼロ12日であった。	B ----- 遅刻目標値は達成できた。遅刻者数については、2・3年生が特に多かった。ただ配慮を要する生徒が複数いるため多くなっている。 交通事故は29件の事故が起きている。うち対自動車との事故が22件・対自転車5件・自損が2件となっている。	・交通事故の件数を減らすための指導や取組が望まれる。事故を起こさないためにも生徒・家庭への時間にゆとりを持った行動を常に促してほしい。 ・自転車の運転マナーについて、繰り返し指導してほしい。	交通事故は27件で昨年度よりも2件減少した。遅刻に関しては昨年度から80件減少をしたが、2・3年生が多くなっている。 遅刻率では1.2年生が1%を下回っており、3年生が1%を超えている。2・3年生では特定の配慮を要する生徒がおり遅刻数が1%を超える要因となっている。ただ新型コロナ対応での体調不良などによる遅刻などが多くあり、遅刻を指導がしづらくなっている。また雨の日の交通渋滞による遅刻をいかに改善するかが毎年の課題である。
進路指導の充実	生徒の進路希望の把握に努める。	年度当初の面談や夏季休業中の三者面談の他に平日頃から計画的に面談を行い、生徒の進路希望を把握するとともに、その実現に向けての指導を的確に行う。 ⇒a 担任等による個人面談を年間4回以上実施する。 b 面談の満足度80%以上 c 3年生の進路検討会を4回以上実施する。	⇒a 個人面談を全学年で1学期に1回設定、2学年は教科面談を2学期に1回、3学期に1回設定した。 面談週間以外にも、生徒との面談を積極的に行った。 b 学校評価アンケートで、面談が進路選択に役立っていると答えた 生徒は、 1年生 81% 2年生 77% 3年生 93% 保護者は、 1年生 86% 2年生 84% 3年生 93% であった。 c 進路検討会を3年生は4回実施した。	A ----- 進路希望を達成できるよう、面談等を通して生徒や保護者の進路希望の把握に努めている。 進路情報誌の精選を行い、年度当初に計画して、適切な時期に配布するよう努めた。 3年生の進路検討会の4回実施が定着した。	・今後も生徒や保護者が知りたい進路情報を適切な時期に適宜与えてほしい。 ・家庭学習の必要性と、勉強と部活動との両立をやり遂げるための有効な時間の使い方ができるような指導を、学校全体でしっかりと取組んでほしい。 ・進路指導の充実を図り、難関大学への進学を目指す学力を持つ生徒を育ててほしい。	進路講演会やオープンキャンパス等への参加(コロナウイルス感染症のため今年度も難しい状況が続いている)など、将来の自分の進路について考えさせる機会をさらに増やしていきたい。 広い視野で自己の将来を考えさせるために、広範囲に渡って情報提供し、選択の幅を広げさせることも必要である。
特別活動の充実	生徒が充実感・達成感を感じられる学校行事と部活動を展開する。	①学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度80%以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動評価の満足度80%以上	①生徒会との意見交換を活発に行い、コロナ感染症対策を講じながら充実したものとなるように努めた。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの学校行事満足度は54%であった。 ②専門性、本人の希望に応じて顧問を配置し、日々の指導も生徒との会話を重視して行っている。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの部活動満足度は72%であった。	B ----- 部活動は充実している結果が出たが、学校行事においては、コロナ感染症対策のために、例年通りに実施できず、満足度は大きく下がった。	・部活動の取組でも、スポーツや文化活動での活躍を、新聞などでよく見る。勉強にも部活動にも意欲的に取組む「文武両道」の精神を今後とも続けてほしい。	今後も生徒会との意見交換を行い、コロナ感染症を取り巻く状況を鑑みながら、行事のあり方や実施方法を検討していく。 また、顧問同士の対話や部員と教員との対話を多くとることで、部活動内の状況把握に努め、生徒理解を深める。

<p>情報教育・国際教育の推進</p>	<p>情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能を習得し、新たに学校における基盤的ツールとなる ICT を最大限活用しながら、問題解決や探究の過程において必要な情報活用できる人材の育成を図る。</p>	<p>①生徒は、情報科や総合的な探究の時間の授業を通じて情報活用能力を高める。 ⇒コンピュータを用いて作成したレポートの提出、もしくはプレゼンテーションによる評価をする。 年（1）回以上 ②教員は、ICT活用教材の提示などによる情報交換を通じ、多様な生徒たちを誰1人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。</p>	<p>①情報の授業においてレポートの提出、総合的な探究の時間の授業においてプレゼンテーションソフトを利用して発表を行った。生徒間における評価も、Microsoft forms を用いて行うなど、1人1台タブレットを活用した授業の工夫を行うことができた。 ②多くの教員が電子黒板やタブレットを利用した授業を展開している。また、Zoomを活用した集会や講演会などを通し、これからのICT活用能力を養うことができた。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>全体的には活用能力等養うことができたが、一部にはICTの活用を苦手に思う生徒・教員もいるため、授業や研修を通して苦手意識の解消を図る必要がある。</p>	<p>・学校案内にもICTを活用している授業風景の写真を載せてアピールしてほしい。 ・「情報」に関する生徒の知識は高校までに個人差ができると思うが、中高で連携し、プログラミングで制作物を作るなど、その知識の有用性を生徒が感じられるようにしてほしい。 ・「情報1」の大学受験科目に備えてほしい。</p>	<p>1人1台のタブレットが配置されて、より授業においてICT活用が重要になってくる。 取扱方法など生徒に対する講習会や教員に対する研修会を複数回実施することにより、積極的にICTを活用できる人材の育成に努める。</p>
<p>環境・防災教育の推進</p>	<p>各自が責任を持ってゴミの分別や環境美化に努め、持続可能な学校を維持することができる。 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。</p>	<p>①自分の分担場所の清掃を責任をもってやっている生徒の割合を（90）%以上にする。 ②防災訓練を年（2）回実施する。 ③防災について関心の高い生徒の割合を（75）%以上にする。</p>	<p>①責任を持って清掃をしている生徒は97%となっており、ゴミ箱を定期的に洗浄するなど校舎内外が美しく保たれるようになった。 ②7月に地震対応の避難訓練を実施し、全校生徒が校舎3・4階への垂直避難を迅速に行うことができた。10月には災害避難する場合の避難経路確認として徳島霊園とニュータウン城南台までの行動を有志約100人が確認することができた。 ③9月に環境防災ホームルーム活動を実施し、1年は「防災意識を高めよう」、2年は「もし今大地震がおこったら…」というテーマで環境防災委員によるプレゼンテーションを行った。その後学校周辺のハザードマップや避難所運営についての学習を行った。1年87%・2年84%・3年86%の生徒が防災について関心があり、指標を達成することができた。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>コロナ禍の中ではあるが、できる防災教育を考え実践することができた。生徒ホルの環境防災掲示板も充実させることができた。</p>	<p>・生徒が「自分ごと」として防災に取組む活動を今後も続けてほしい。</p>	<p>防災教育については、高い関心があることがわかった。防災訓練がマンネリ化しないよう内容の充実を考えていきたい。また、環境防災ホームルーム活動は本年2回目となり、毎年9月頃実施することが定着してきた。環境防災委員の活動として内容を充実・検討していきたい。</p>
<p>消費者教育・主権者教育の推進</p>	<p>消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 持続可能な社会の実現に向けた消費生活を実践できる能力を育成する。</p>	<p>①「契約トラブルや消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合を（60）%以上にする。 ②「持続可能な社会について考え、実際に行動することができた」と回答した生徒の割合を（70）%以上にする。</p>	<p>①消費者教育は主に1年次の家庭基礎で実施（9月）したため、12月に行われた調査では、1年77%・2年68%・3年75%と2年生で低いものとなった。 ②探究の授業や家庭基礎、環境美化・エシカルクラブの活動などを通して持続可能な社会について考えたが、1年70%・2年64%・3年80%と2年の数値が低かった。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>消費者教育や持続可能な社会について、ともに2年生の数字が低いことが気にはなるが数値は上昇している。啓発・広報・実践を促していくことは大切である。</p>	<p>・現在の2年生から18歳成年となるため、消費者教育や主権者教育は非常に重要だ。全ての学年で生徒が学ぶ機会を今後も設けてほしい。</p>	<p>現在の2年生から18歳成年となるため、消費者教育は重要となってくる。1年次でしか学習しないことが課題であるが、学校生活のあらゆる場面で伝えていく必要がある。持続可能な社会については、ゴミの分別を徹底させ、自分の行動に自信を持てる生徒を育てたい。</p>
<p>民主社会を形成する主権者としての意識向上を図る。</p>	<p>①主権者教育に対する教職員の共通理解と指導力の向上を図る。 ⇒教職員研修年（1）回実施 ②生徒の主権者意識を高めるための出前講座を実施する。 ⇒出前講座を年（1）回実施 ③主権者教育に関するHR活動を年（1）回実施</p>	<p>①③今年度は、徳島市選挙管理委員会による講義をリモート形式で実施。HR活動と教職員研修を兼ねる形で実施した。 ②徳島文理大学吉川友規講師による出前講座を1・2年生対象に実施した。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>出前講座の事後アンケートの結果は良好であり、その意識を実践に結びつけることが重要である。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>令和4年4月から成人年齢が18歳に引き下げられることから、投票行動のみならず民主社会を形成する一員としての自覚をいかに促していくかが課題であり、生徒会をはじめとする特別活動との連携を考えていきたい。</p>	<p>令和4年4月から成人年齢が18歳に引き下げられることから、投票行動のみならず民主社会を形成する一員としての自覚をいかに促していくかが課題であり、生徒会をはじめとする特別活動との連携を考えていきたい。</p>
<p>望ましい校風の樹立</p>	<p>スーパーサイエンスハイスクールの活動をすべての教育活動にも生かし、成果を生徒の進路実現につなげるとともに、県下への普及を図る。</p>	<p>①スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組により、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、発展的な応用力も身に付けさせる。⇒SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒（70）%以上 ②科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞等での入選数（7）以上 ⇒全国大会への出品（2）以上</p>	<p>①SSHの課題研究や数理科の授業など、様々な取組を通し、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的・発展的な力が身につくよう努めた。 ⇒応用数理科3年生に実施したアンケート・自己評価で3年間の活動に対する「満足」85%、科学的な見方・科学的に問題解決する力が身についたとする生徒87% プレゼンテーション能力が向上したとする生徒80% レポート作成能力が高まったとする生徒90% 研究方法や技能の習得ができたとする生徒85% ②理科担当教員による放課後の指導等により、科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図った。 ⇒日本学生科学賞徳島県審査 優秀賞3、入賞2 ⇒第78回科学経験発表会 最優秀1、特選1、入選2 ⇒全国高等学校総合文化祭自然科学部門 文化連盟賞 ⇒中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会 奨励賞 ⇒スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会発表</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>SSHの活動に対してはどの項目でも評価が高く、3年間の活動が充実していたことがうかがえる。コロナ禍で校内外のいくつかの発表会や科学イベントが中止となったが、本校企画のものについてはオンラインを活用し、実施に努めた。課題研究では高い評価をいただくことができた。課題研究指導のノウハウについては、「徳島教育」11月号で県内教育関係者に向け発信することができた。今後も生徒の主体性を育成し、能力の向上や各種コンテストでの成果</p>	<p>・SSHの「課題研究」の成果が、さまざまところで評価されている。高大連携等も発展させ、学校全体として取り組んでほしい。 ・各種科学賞で素晴らしい成果を収めている。また、進路実現においても同様のことが言える。その成果をHPや学校案内を通じ発信してほしい。</p>	<p>文科省のSSH第4期の指定を受けて、課題研究の指導や高大連携についてさらに発展させるとともに、ルーブリックやアクティブラーニング等の情報収集と研究、そして実践を行った。 ルーブリックの研究実践は、生徒の主體的な課題研究の内容向上や教員の指導力強化につながっている。 今後、SSHの取組等の成果を評価するシステム構築やSSHの取組の学校全体への波及、また「チャレンジ授業（研究授業）」の充実も必要である。</p>

	<p>③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施（2）回以上</p> <p>④普通科「探究」の充実を図る。 ⇒成果発表会の実施（1）回以上 ⇒自己の在り方生き方を考えながら、主体的に問題を発見し解決する力を養う「探究」活動への生徒満足度（70）%以上</p>	<p>③ ⇒中学生対象理科実験教室を1回実施した。 ⇒徳島大学と共同で、徳島県SSH高等学校課題研究および科学部研究研修会を2回開催し、延べ10校288名の生徒に参加してもらうことができた。</p> <p>④今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、外部との連携やクラス間の交流という点では、なかなか思うように活動が進まなかった。しかし、2月実施の「探究活動アンケート」では、「主体的に取り組めた」と評価する2学年生徒が90%いた。また、学年が進行して「考察・分析・結論」をどう導き出すかという部分への課題意識を高めた。 1年生のアンケートでは、今後「情報分析力」や「プレゼンテーション力」を身に付けていきたいとの回答が多く寄せられ、次年度への期待が伺われる。</p> <p>⇒成果発表会を1回実施した。 ⇒「探究」活動への生徒満足度は、1年98%、2年85%であった。</p>	<p>獲得を図っていきたい。</p>		
<p>家庭や地域社会と連携及び協働し、地域や保護者の信頼に応える学校づくりの推進に努める。</p>	<p>積極的な情報発信に努める ⇒ホームページの更新回数、月（10）回以上 ホームページへのアクセス数、年間（450,000）件以上</p>	<p>コロナ感染症対策の情報やコロナ禍での学校の様子、またGIGAスクール通信などコンスタントに更新することができた。ホームページの更新回数は月平均13回である。 ホームページへのアクセス件数は1年間で約120万件となり、昨年より大幅に増えた。これもコロナ下の影響が反映されているためであると考えられる。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>----- アクセス数を増やすため全ての分野での更新と魅力あるページの作成に努力したい。</p>	<p>・ホームページのアクセス数が大幅に増えている。本校の生徒や保護者、受検を考えている中学生の生徒や保護者にとって、今後も知りたい情報を分かりやすく掲載して行ってほしい。</p>	<p>より多くの方に見ていただけるようなホームページを作成・更新するように努める。 中学生や保護者のアクセスが多いことから、ニーズに応じた更新を行っていく必要がある。</p>